

平成27年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年12月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 サンオータス
 コード番号 7623 URL <http://www.sunautas.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 北野 俊
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 古川 晴男

TEL 045-473-1211

四半期報告書提出予定日 平成26年12月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年4月期第2四半期の連結業績(平成26年5月1日～平成26年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年4月期第2四半期	19,341	0.4	△338	—	△326	—	△294	—
26年4月期第2四半期	19,245	10.4	64	△16.4	73	△17.0	△38	—

(注) 包括利益 27年4月期第2四半期 △293百万円 (—%) 26年4月期第2四半期 △42百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年4月期第2四半期	△93.93	—
26年4月期第2四半期	△12.06	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年4月期第2四半期	14,776	3,371	22.8
26年4月期	14,531	3,726	25.6

(参考) 自己資本 27年4月期第2四半期 3,368百万円 26年4月期 3,723百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年4月期	—	0.00	—	17.00	17.00
27年4月期	—	0.00	—	—	—
27年4月期(予想)	—	—	—	12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年4月期の連結業績予想(平成26年5月1日～平成27年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,000	△2.7	100	△63.1	100	△64.1	60	△1.9	19.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年4月期2Q	3,230,500 株	26年4月期	3,230,500 株
② 期末自己株式数	27年4月期2Q	97,870 株	26年4月期	80,270 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年4月期2Q	3,133,648 株	26年4月期2Q	3,181,220 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による景気対策の実施効果から、企業収益と雇用情勢が改善するなど、景気は緩やかな回復基調をたどりました。しかしながら、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動の長期化と物価上昇による消費者マインドの低下がみられ、世界経済では米国における金融緩和の縮小、中国やその他新興国経済の成長鈍化、地政学的リスクなどの影響が懸念され、先行き不透明な状況で推移しております。

このような状況の下、当社グループは、三カ年の中期経営計画として「トータルカーサービス」から「トータルライフサービス」への発展的な変革を行うため、生活関連事業の拡大強化を図り、お客様が抱える諸課題と多様なニーズにお応えできるサービス体制の構築に努めました。また、新規顧客の獲得強化とお客様満足度向上による顧客の固定化に取り組むとともに、経営全般にわたる効率化を推進いたしました。

しかしながら、当社グループ事業の輸入車販売と石油製品販売におきましては、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動の長期化や、販売価格による顧客獲得競争が一段と激化するなど、厳しい経営環境下におかれましては。

その結果、売上高は19,341百万円（前年同四半期比95百万円増収、0.4%増加）、営業損失338百万円（前年同四半期は64百万円の営業利益）、経常損失326百万円（前年同四半期は73百万円の経常利益）を計上し、法人税等負担後の四半期純損失は294百万円（前年同四半期は38百万円の四半期純損失）となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。なお、セグメント間の取引については、相殺消去前の数値によって表示しております。

① エネルギー事業（石油製品販売、カーケア商品販売、車検・整備）

当事業につきましましては、SS（サービスステーション）は新規顧客の獲得とENEOSカード・Tカードの新規発券の取り組みに加え、タイヤ・コーティング洗車・メンテナンス商材の充実化と点検サービスのアプローチを徹底するなど、お客様満足度向上による顧客の固定化に努めました。また、直販部門は大口需要家向け燃料油販売の拡大による販売数量の増加に努め、車検部門では環境対策として掲げる環境車検の販促強化から生産台数は堅調に推移しました。損益面では、SS間の販売価格による顧客獲得競争が一段と激化したことから、適正なマージンの確保は困難な状況が続き、また、夏季の天候不順の影響でカーケア収益が低調に推移したこともあり、セグメント損失を計上することとなりました。

なお、当事業では平成26年8月に「ENEOS Dr. Drive 平塚追分SS」の運営を開始しました。当SSは「Shonan BMW スタジアム平塚」の隣に位置しており、同スタジアムを本拠地とする湘南ベルマーレ（オフィシャルクラブ・パートナー）との販促イベントを開催するなど、地域密着型SSとしての取り組みを積極的に推進し、新規顧客の獲得と競争力の強化に努めました。

この結果、売上高は9,606百万円（前年同四半期比357百万円増収）、セグメント損失は46百万円（前年同四半期はセグメント損失57百万円）となりました。

② カービジネス事業（BMW、プジョー、フォードの輸入車正規ディーラー、オリックス・レンタカー）

当事業の輸入車販売業界は、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動の長期化から、平成26年4月～10月までの輸入乗用車国内販売台数は143,469台となり、前年同期と比べ8.1%減少いたしました。

当社グループの各輸入車ブランドにおきましては、新規ユーザーの獲得と積極的な買い替え促進策により、エコカー対象車両の販売が好調に推移しました。損益面では、新車販売の価格競争による粗利率の低下や車検到来台数の減少などにより、厳しい収益状況となりましたが、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動は徐々に収束に向かっており、BMW車では2シリーズ・アクティブツアラー、プジョー車ではNEW308シリーズが発売されるなど、利益面は最大需要期を迎える次四半期以降に期待をつなぐ結果となりました。

レンタカーにつきましましては、顧客の獲得競争が激化するなか、個人・法人チャネルを中心に新規顧客の開拓と既存ユーザーへのアプローチ強化による再利用の促進と、お客様ニーズに見合った新型エコカー車両の拡充を積極的に推進しました。また、11月27日にグランドオープンとなるFujiSawaサスティナブル・スマートタウンの『SQUARE Mobility』開設に向けて準備を進めてまいりました。当拠点では、従来のレンタカーサービスにとらわれない当社事業のシナジー拠点と位置付け、利便性・環境性・先進性を兼ね備えたトータルモビリティサービスを提供してまいります。

この結果、売上高は9,530百万円（前年同四半期比308百万円減収）、セグメント損失は243百万円（前年同四半期はセグメント利益219百万円）となりました。

③ ライフサポート事業（損害保険・生命保険募集業務、訪問介護サービス）

当事業につきましては、生活関連事業の拡大強化を図るため、先行投資を積極的に行い、将来に繋がる安定収益の確保に努めてまいりました。

保険部門では、平成26年8月に4店舗目の来店型保険ショップ『ほけんの窓口大和駅前店』を新規出店し、店舗の認知活動による集客力の強化に取り組み、来店客数は好調に推移しました。また、更なる新店舗開設に向けた人材の確保を行うとともに、人材育成によるお客様への提案力の強化を図り、成約率の向上に努めてまいりました。

介護部門では訪問介護による生活支援体制の強化と地域ニーズに根差した包括的なサービスを提供するため、通所介護開設（デイサービス）を視野に入れた人材の確保と育成に努めてまいりました。

ライフサポート事業につきましては、ほけんの窓口店の開設に伴う人件費および販管費の先行負担によりセグメント損失を計上いたしますが、来店客数ならびに契約件数は両部門ともに計画どおり進捗しております。

この結果、売上高は62百万円（前年同四半期比26百万円増収）、セグメント損失は14百万円（前年同四半期はセグメント損失55百万円）となりました。

④ 不動産関連事業（ビルメンテナンス業、不動産賃貸業）

当事業につきましては、ビルメンテナンスの営業強化による売上拡大と安定した顧客の確保により、引き続き堅調に推移いたしました。

この結果、売上は242百万円（前年同四半期比9百万円増収）、セグメント利益は51百万円（前年同四半期はセグメント利益48百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、14,776百万円と前連結会計年度末に比べ245百万円増加しました。これは主に、固定資産が501百万円増加したとによるものであります。負債合計は11,404百万円と前連結会計年度末に比べ599百万円増加しました。これは流動負債が321百万円増加し、固定負債が278百万円増加したことによるものであります。純資産合計は当第2四半期連結累計期間の業績を反映し354百万円減少して3,371百万円となりました。

その結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は2.8ポイント減少して22.8%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ61百万円減少して1,126百万円となりました。当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況と主な要因は次のとおりです。

(営業活動におけるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、426百万円となりました(前年同四半期連結累計期間は405百万円の獲得)。これは主に、税金等調整前四半期純損失332百万円及び減価償却費341百万円を計上し、未払金の減少額が120百万円あった一方、たな卸資産の減少額348百万円、未収入金の減少額250百万円及び法人税等の支払額109百万円があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、819百万円となりました(前年同四半期連結累計期間は466百万円の使用)。これは主に、試乗用車両を中心とした有形固定資産の取得による支出が835百万円あったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、331百万円となりました(前年同四半期連結累計期間は305百万円の使用)。これは主に、短期借入金の増加が437百万円、長期借入金による収入が350百万円、リース債務の返済による支出が194百万円、長期借入金の返済による支出が186百万円あったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間における業績の進捗状況や今後の市場動向を勘案し、前回(平成26年6月19日)公表した平成27年4月期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日(平成26年12月12日)付けで別途開示しております「平成27年4月期第2四半期業績予想と実績との差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,324,203	1,262,261
受取手形及び売掛金	2,068,646	2,087,739
商品及び製品	2,843,604	2,822,034
原材料及び貯蔵品	15,575	12,381
繰延税金資産	27,076	68,246
その他	1,004,458	769,170
貸倒引当金	△34,612	△28,830
流動資産合計	7,248,953	6,993,003
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,107,514	1,148,865
土地	3,890,088	4,147,261
リース資産(純額)	545,599	733,382
その他(純額)	599,749	629,834
有形固定資産合計	6,142,951	6,659,344
無形固定資産		
その他	18,663	18,259
無形固定資産合計	18,663	18,259
投資その他の資産		
投資有価証券	93,175	92,445
長期貸付金	44,400	38,400
差入保証金	643,385	617,681
繰延税金資産	75,797	80,217
その他	293,569	306,820
貸倒引当金	△29,407	△29,400
投資その他の資産合計	1,120,920	1,106,165
固定資産合計	7,282,535	7,783,768
資産合計	14,531,489	14,776,771

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年10月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,258,402	2,255,330
短期借入金	5,339,615	5,777,411
1年内返済予定の長期借入金	397,988	443,254
1年内償還予定の社債	30,000	30,000
リース債務	271,989	318,991
未払法人税等	118,030	6,606
賞与引当金	112,391	113,656
その他	840,050	744,283
流動負債合計	9,368,468	9,689,534
固定負債		
社債	30,000	15,000
長期借入金	579,704	697,444
リース債務	305,365	462,615
繰延税金負債	15,738	13,569
役員退職慰労引当金	77,532	82,018
退職給付に係る負債	397,985	413,276
その他	30,231	31,350
固定負債合計	1,436,557	1,715,274
負債合計	10,805,026	11,404,809
純資産の部		
株主資本		
資本金	411,250	411,250
資本剰余金	462,500	462,500
利益剰余金	2,871,310	2,523,424
自己株式	△41,817	△48,931
株主資本合計	3,703,243	3,348,243
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,117	20,616
その他の包括利益累計額合計	20,117	20,616
新株予約権	3,103	3,103
純資産合計	3,726,463	3,371,962
負債純資産合計	14,531,489	14,776,771

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)
売上高	19,245,986	19,341,697
売上原価	16,348,180	16,711,251
売上総利益	2,897,806	2,630,445
販売費及び一般管理費	2,833,066	2,968,650
営業利益又は営業損失(△)	64,740	△338,205
営業外収益		
受取利息	513	1,076
受取配当金	935	983
受取手数料	29,679	36,515
その他	9,843	9,284
営業外収益合計	40,973	47,859
営業外費用		
支払利息	27,663	32,065
その他	4,346	4,262
営業外費用合計	32,010	36,327
経常利益又は経常損失(△)	73,703	△326,673
特別損失		
固定資産売却損	-	23
固定資産除却損	1,694	5,667
役員退職慰労金	38,249	-
特別損失合計	39,943	5,690
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	33,759	△332,364
法人税、住民税及び事業税	69,834	7,987
法人税等調整額	2,283	△46,018
法人税等合計	72,118	△38,031
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△38,358	△294,332
四半期純損失(△)	△38,358	△294,332

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△38,358	△294,332
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,018	499
その他の包括利益合計	△4,018	499
四半期包括利益	△42,376	△293,833
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△42,376	△293,833
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	33,759	△332,364
減価償却費	307,284	341,540
のれん償却額	5,038	-
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,847	△5,789
賞与引当金の増減額(△は減少)	3,363	1,265
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△517	-
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	-	15,291
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△24,078	4,485
受取利息及び受取配当金	△1,449	△2,059
支払利息	27,663	32,065
役員退職慰労金	38,249	-
有形固定資産売却損益(△は益)	-	23
固定資産除却損	1,694	5,667
売上債権の増減額(△は増加)	19,815	△12,562
たな卸資産の増減額(△は増加)	△16,299	348,804
仕入債務の増減額(△は減少)	275,361	△15,850
未収入金の増減額(△は増加)	△125,063	250,867
未払金の増減額(△は減少)	9,501	△120,840
その他	△51,081	55,285
小計	501,392	565,828
利息及び配当金の受取額	1,449	2,059
利息の支払額	△27,905	△31,627
法人税等の支払額	△69,718	△109,822
営業活動によるキャッシュ・フロー	405,218	426,437
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△10	△8
有形固定資産の取得による支出	△473,348	△835,459
投資有価証券の取得による支出	△516	△511
差入保証金の差入による支出	△15,048	△15,107
差入保証金の回収による収入	31,038	38,094
短期貸付金の増減額(△は増加)	250	1,000
長期貸付けによる支出	△1,750	-
長期貸付金の回収による収入	7,250	6,000
その他の支出	△13,884	△13,851
投資活動によるキャッシュ・フロー	△466,020	△819,844
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	114,000	437,796
長期借入れによる収入	-	350,000
長期借入金の返済による支出	△192,316	△186,994
社債の償還による支出	△15,000	△15,000
リース債務の返済による支出	△174,647	△194,048
配当金の支払額	△38,173	△53,184
自己株式の取得による支出	-	△7,113
自己株式の売却による収入	825	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△305,312	331,455
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△366,114	△61,951
現金及び現金同等物の期首残高	1,516,594	1,188,108
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,150,480	1,126,156

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	エネルギー 事業	カービジネス 事業	ライフサポ ート事業	不動産関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	9,164,829	9,829,444	36,041	215,671	19,245,986	—	19,245,986
セグメント間の内部売上高 又は振替高	84,361	9,945	194	16,792	111,293	△111,293	—
計	9,249,190	9,839,389	36,235	232,463	19,357,280	△111,293	19,245,986
セグメント利益又は損失(△)	△57,184	219,729	△55,454	48,358	155,449	△90,708	64,740

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△90,708千円には、セグメント間取引消去53,993千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△144,702千円が含まれております。なお、全社費用は管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年5月1日 至 平成26年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	エネルギー 事業	カービジネス 事業	ライフサポ ート事業	不動産関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	9,530,068	9,522,487	61,612	227,528	19,341,697	—	19,341,697
セグメント間の内部売上高 又は振替高	76,254	8,269	892	14,584	100,000	△100,000	—
計	9,606,322	9,530,756	62,504	242,113	19,441,697	△100,000	19,341,697
セグメント利益又は損失(△)	△46,064	△243,603	△14,380	51,844	△252,203	△86,002	△338,205

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△86,002千円には、セグメント間取引消去47,884千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△133,886千円が含まれております。なお、全社費用は管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。